

議員全員協議会

日 時	令和5年7月18日（火） 閉会中	8時54分 開会 10時46分 閉会
場 所	相良庁舎4階 大会議室	
出席議員	議長 16番 植田博巳 副議長 15番 村田博英	
	1番 石山和生 2番 谷口恵世 3番 絹村智昭	
	4番 名波和昌 5番 加藤 彰 6番 木村正利	
	7番 松下定弘 8番 種茂和男 9番 濱崎一輝	
	10番 原口康之 12番 太田佳晴 13番 中野康子	
	14番 大石和央	
欠席議員		
事 務 局	局長 田形正典 次長 本杉裕之 書記 植田容子 書記 本杉周平	
説 明 員	市長、副市長、教育長、総務部長、企画政策部長、政策監 福祉こども部長、子ども子育て課長、幼保支援係長、 健康推進部長、産業経済部長、商工観光課長、観光振興係長	
傍 聴		

署名 議長

開会の宣告

○議長（植田博巳君）

おはようございます。大変暑い日が続いています。体調を崩さないようにしてください。ちょっと早いんですけども、皆さんお集まりですので、ただいまから議員全員協議会を開催いたします。

2 市長報告

○議長（植田博巳君）

最初に、市長のほうから報告をお願いいたします。

杉本市長。

○市長（杉本基久雄君）

皆さんおはようございます。本当に酷暑といえますか、連日暑い日が続いています。ぜひ体調には十分気をつけて活動いただければと思います。

それではまず最初に、静波・相良海水浴場について、報告といえますか、申し上げます。

まず、静波海水浴場、さがらサンビーチにおきましては、先週の14日、議会の皆様にも出席をいただきまして、開設を行いました。8月31日までの開設となります。

期間中、ライフセーバーの配置などによりまして、安心安全な運営を徹底し、海水浴客をお迎えしたいと思います。開所式の中でお伝えをしましたが、日本ライフセービング協会から安心安全の海水浴場ということで、県下で、この二つの海水浴場が認定をされました。これは3年ほど前だったんですが、コロナ禍で発信を控えるというようなことで控えておりましたけれども、今回の開所式で、このことをお伝えさせていただきました。現在では、下田市がさらに認定を受けて、県内では三つの海水浴場が認定を受けているということでもあります。

今年は、コロナの5類移行によりまして、国外旅行が復活、あるいは中部横断自動車道の開通によりまして、山梨、長野両方面からの来訪者など、県内外からの観光客の増加を期待しているところでございます。

そして、この3連休の海水浴場の入り込み客数の概要が少し出ましたので、お伝えをさせていただきます。

まず、今年のこの3連休、静波海水浴場には3日間で1万3,770名、相良海水浴場では7,191人、合わせまして2万961人。ちなみに昨年でありまして、静波が7,956人、相良が3,596人ということで、1万1,552人ということで、昨年を約倍増する来訪者が訪れている。まだまだコロナ禍前の2018年の6万924人には届きませんが、回復傾向が見られるということでもあります。

まず、その点をお伝えさせていただきたいと思います。

それから、花火大会でございますが、花火大会につきましては、9月2日の土曜日、「R I D E O N M A K I N O H A R A いい波に乗ろう！さがら海水花火大会2023」をテーマにさがらサンビーチを会場に開催をいたします。市民や観光客の皆様にご好評いただいている「W e l c o m e 花火」の打ち上げも企画しておりますので、こちらは静波のほうで行いますが、また公式L I N E 等でお知らせをさせていただきたいと思っております。

次に、R I D E O N M A K I N O H A R A の誘客キャンペーンであります。アフターコロナに向けた観光・経済対策として、令和2年度から実施している「R I D E O N M A K I N O H A R A 誘客キャンペーン」を、今年度は合計1万泊分の大型助成を実施をいたします。

第一弾といたしまして、海水浴シーズンの7月から8月、山梨県民、長野県民を対象といたしまして、第二弾は観光客の閑散期となります9月から1月、全都道府県民を対象として市内24の宿泊施設の利用者に、市内327店舗で使用できる3,000円分の商品券を配布することとしています。

宿泊対象者が市内での飲食、そして観光、体験、お土産などにお使いいただくことで、市内経済の活性化を図るということを目的としております。

そうした中で、先週、11日、トップセールスとして山梨県甲州市、山梨市の日日新聞、Y B S の山梨放送などを観光促進キャンペーンで訪問をいたしまして、アピールをさせていただきました。Y B S の山梨放送においては、30分の生番組のほうに出演させていただいて、P R をさせていただきました。

そして日日新聞では、翌日の朝刊にそうした記事が掲載をされました。先週末の時点で、山梨県からの予約ですが、480名を超える皆さんから予約をいただいているということで、昨年を上回る来訪客を見込んでいるところでございます。

甲州市に関しましては、甲州市長さん、まだ牧之原へ市長になってから来たことがないということですので、今回、「R I D E O N M A K I N O H A R A いい波に乗ろう！さがら海上花火大会2023」、甲州市長さん自ら見に来たいということで来られますので、歓迎したいなというふうに思っております。

それから、9月からの第2弾につきましては、牧之原市民も対象となりますので、市民の皆様にも多く利用をいただきたいなと思っております。市ホームページ、公式L I N E などでお知らせをしておりますので、よろしく願いをいたします。

そして、将棋の関係での勝負メシのプロジェクトであります。藤井さんが2連勝して、なかなか6局に来る可能性が大分遠のきましたけれども、代替イベント等も予定しておりますし、この王位戦を二人に盛り上げていただくということで、勝負メシプロジェクトについては、予定どおりやらせていただいております。

先週11日の総務建設委員会で担当からお知らせをいたしました第2回R I D E O N M A K I N O H A R A 地場産品活用「勝負メシ」プロジェクトについては、インターネットで7月31日まで募集をしております。みんなの推しメニュー投票の中間状況を市ホームページで公開もさせていただきました。

最終の投票結果によりまして、ランチ、スイーツそれぞれ推しの5品を決定いたしまして、8月17日木曜日に勝負メシの発表会、会場はさざんかで開催をしたい。そして、エントリーいただいた全品をパンフレットにまとめまして、広く市内外にPRをして、誘客につなげていきたいというふうに考えております。

この勝負メシは9月5日、6日当日、平田寺で開催が予定されている、将棋タイトル戦「伊藤園お〜いお茶杯 第64期王位戦」第6局で藤井聡太王位と挑戦者の佐々木七段の食事やおやつメニューとして提供する予定であります。

議員の皆さんにおかれましても、ランチ部門、スイーツ部門、それぞれの部門に投票をぜひともご参加をいただきたいというふうに思いますので、よろしく願いをいたします。

そして、皆さんのところへ、手元にはメモが行っていませんけれども、私、16日、17日と二日間ですけれども、千葉県鴨川市の医療従事者のためのサーフィン大会、第10回のKameda Cup in 鴨川の視察に行つてまいりました。ことにつきましては、4月28日にパラサーフィンフェスタ世界大会をサーフスタジアムでやったときに、亀田総合病院のスタッフがボランティアとして参加して来ていただきました。その中で、ぜひ牧之原市さんからもKameda Cupを見に来ていただけたらというようなことで、参考になるのではないかとということでご案内をいただきましたので、そんなことでお邪魔をさせていただきましたけれども、この大会は医療法人鉄蕉会亀田総合病院が主催するサーフィン大会でありまして、目的をコロナ等で戦い続ける医療の従事者に感謝とねぎらいの波をとじて、医療従事者の皆さんに前向きな気持ちで医療に携わる、そんな環境づくりを実現したいということで、それから、さらには地域の活性化に寄与したいと毎年行われています。

この大会には、北は北海道から南は沖縄まで200人のサーフ好きの医療従事者が集いまして、地元商工会の関係者の出店とかステージイベント、ビーチサッカー大会など、とてもにぎわっていました。

それで、この大会には、徳洲会の湘南藤沢病院からもドクターをはじめ従事者が20人ほど参加をしていました。その皆さんとお会いしたときに、今、東上理事長に理事長は代わりましたけれども、ぜひ徳洲会でもやれという指示が出ているので、我々もずっと参加していますが、ぜひ静波のサーフスタジアムでやりたいねというようなことで、病院の関事務長も一緒に連れて行ってまいりました。そんなことで今後、当市においてもこうしたものが開催できればというふうに思っております。

会場では、亀田隆明理事長、それから息子さんの院長、そして長谷川孝夫鴨川市長さんにもお会いさせていただいて、30分ほどでしたけれども、歓談ができるいい機会をいただきました。さらには、4月のパラサーフィンフェスタに出場した日本パラサーフィンの代表選手の勝倉さんと、それから近藤さんというお二方にもお会いできました。エキシビジョンで最後やるということでしたが、私どもお昼頃帰ってきましたので、ちょっと見ることはできませんでした。

そして、その前日は、亀田総合病院と亀田総合医療大学を視察させていただきました。亀田総

合大学は、医療総合大学は定員80人ということですが、非常に大きい大学の施設、10年ほど前にできたというんですが、すばらしい施設で、そういった環境の中で看護師さんの養成、それからさらには専門学校があって、そのさらに上を目指す助産師さんとか、そういったものの養成も行っているということでありました。約8割が亀田総合病院に入職するというようなことを伺いました。

病院施設も視察させていただきましたけれども、30年前に建設したということですが、とてもそういうふうには感じませんで、非常に医療施設としては、いろいろな機能がそろっていて、非常に参考になる施設でありました。医師が500名、産婦人科医が18名、鴨川市は人口が3万人そこそこですので、そこにこれだけの巨大病院が、どこからお客さんが来るんですかという話を聞いたら、南房総は大体20万人ぐらいの圏域なんですけど、それプラス関東全域、東京からも来られる。

それから、VIPルームもあって、VIP専用の入院病棟ですとか、エレベーターですとか、あるいはスポーツドクターは十数名いて、プロ野球ですとか、Jリーグですとか、そういったプロ選手が入院できるといいますか、治療できる。そういった専用の部屋もあるということで、見させていただきましたけれども、ホテル以上の部屋でしたね。

それから、最上階にはレストランがありまして、いろいろなものを食べられるのですが、そこにはワインから、ビールから、飲めるんですよ。入院患者さんにはちょっと遠慮していただいていますということですが、非常ににぎわっていたり、あるいは、今年かな、ユニクロが病院内の敷地にできたということでありました。これはユニクロは直というよりも、亀田の関係法人がそこに委託販売という形でユニクロを出したということですが、非常ににぎわっていましたね。外来患者だけで1日2,500人が訪れるという巨大病院ですので、そういった意味では、我々の病院とは桁違いですが、そんなところを見させていただきました。

この500人の医師をどうやって確保したのですかというような話を理事長にお伺いしたのですが、私自らアメリカまで行って、脳といいますかね、あるいは心臓の第一人者を招聘したことが成功に導いたといいますか、それにだんだん研修医がくっついてくる。そういった地道な活動が、今に来ているというようなお話もいただきました。

我々の病院の話もさせていただきましたけれども、徳洲会さんに指定管理をしていただいて本当によかったですねというようなお話をいただいて、我々にできることがあったらまたぜひご相談くださいということでもありますとか、あるいは、亀田理事長、そして長谷川市長もそうですが、静波サーフスタジアムのことは十分承知をしていました。やはりサーフィンのまちということで、非常にアンテナを高く見ていらっしゃるしまして、ぜひまた牧之原のサーフスタジアムを見に行きたいというようなことでしたので、またぜひお越しくださいというようなことで、お会いできました。非常に有意義な視察だったというふうに思っております。

それから次は、2件報告案件がございますので、まず、牧之原市の交通死亡事故ゼロ連続400日の達成についてということがございますが、4ページの資料1、交通死亡事故ゼロ連続日

数の基準達成に伴う表彰状の伝達についてをご覧いただきたいと思います。

牧之原市内におきましては、令和4年5月19日の交通死亡事故発生から令和5年6月24日午前0時をもって交通死亡事故ゼロ連続400日を達成をいたしました。死亡事故ゼロ400日達成に伴いまして、来月8月4日金曜日、静岡県交通安全対策協議会より、牧之原市交通死亡事故ゼロ400日達成表彰状伝達式を市役所榛原庁舎において執り行うこととなっております。この表彰基準につきましては人口4万人以上8万人以下の市町において、交通死亡事故ゼロ連続日数の400日を達成した場合に、交通安全優良市町として表彰することとされております。

今月11日、火曜日からは、夏の交通安全県民運動が20日の木曜日までの期間で実施をされております。引き続き受賞を励みといたしまして、次の交通死亡事故ゼロ800日の達成、そしてこれまでの継続日数の記録更新を目指して、地域の皆さんとともに、安全な交通社会の実現に努めていきたいと考えております。

続きまして、指定管理保育園「細江保育園」民営化の審査についてであります。

これについては資料2も参考に、後ほど担当課長から説明させますが、現在指定管理者制度によりまして、学校法人榛原学園が運営しております牧之原市立細江保育園につきましては、これまで令和6年度末の指定管理期間満了後に民営化する方針で運営をしてきておりました。しかしながら昨年9月、指定管理者であります榛原学園が運営する認定こども園川崎幼稚園において、バス内置き去りによる園児死亡事故が発生をしました。榛原学園から細江保育園返納の申出書が提出もされました。

こうしたことから、令和5年度末での施設運営からの撤退及び指定管理者管理期間終了後の細江保育園の運営を榛原学園に移管することはない旨、榛原学園側に申入れをしているところがございます。現在も榛原学園から返納についての話はありませんで、申出書に基づく協議を継続しているところであります。

市といたしましては、保育園民営化計画に基づきまして、細江保育園の運営を社会福祉法人牧之原市社会福祉事業団へ移管することが妥当であるか否か、令和5年3月28日に牧之原市公立保育所民間移管審査委員会に諮問いたしました。先週7月14日、金曜日に答申を受けましたので、その審査結果について担当から報告をさせますので、よろしく願いいたします。

○議長（植田博巳君）

子ども子育て課長。

○子ども子育て課長（前田明人君）

指定管理保育園細江保育園、民営化の審査結果について報告いたします。市長からの報告のとおり、現在、学校法人榛原学園が運営する牧之原市立細江保育園の民間移管に関する事項について、牧之原市公立保育所民間移管審査委員会において審査したので、結果を次のとおり報告をさせていただきます。

まず1の公立保育所民間移管審査委員会ということで、対象の施設は牧之原市立細江保育園、それから対象の法人としましては社会福祉法人牧之原市社会福祉事業団ということで、委員の皆

さんにつきましては、こちらの表のとおりというふうになっております。

2としまして、民間移管審査委員会の開催経過ということですが、1としまして第1回目の審査委員会、3月28日に行いましたけれども、そちらにつきましては、細江保育園民間移管の経緯、それから移管先としての牧之原市社会福祉事業団についての説明を行っているところで

す。次のページに行ってくださいまして、ウの審査についてですが、こちらのほうにつきましては、今回の審査につきましては評価表によるものではなくて、総合的に評価、判断するというところで、社会福祉事業団が移管先としていいか悪いかというような形で判断をいただくというところで、承認をいただいているところです。

委員からの意見としましては、社会福祉事業団への移管というのが、民間移管と言えるのか、もう少し詳しい説明が欲しいよというようなこと。それから、社会福祉事業団に移管するのがなぜいいのかというようなことをもう少し説明してほしいというものでした。

続いて、第2回目の民間審査委員会ですが、第1回目の委員からの意見に応じまして、民間移管についてということで、再度その目的とか、そういったものを説明しているところです。

それから、イとしまして、社会福祉事業団への運営引継ぎについても併せて説明しております。

それから、細江保育園の移管についてということで、また、併せて説明をさせていただきました。

そういった中で、委員からの意見としましては、事業団は市が設立した社会福祉事業団であり、理事長をはじめとして、理事の役員、保育士等の職員派遣など、強く関わってきていると。市と連携した園運営が可能であると。市が携わってきた運営ノウハウや実績も園運営に生かすことができる。これらのことから、保護者においても安心感を持てると強く感じるというようなこと。それから、事業団では、現在の細江保育園の職員が希望する場合、受け入れる考えであることから、現在の職員が引き続き勤務できる環境をつくるということが可能であると分かって安心したというようなこと。それから、事業団は地方公共団体が設置する社会福祉施設を運営するために設置される社会福祉法人であり、市は連携していると。一方で、法人としては、運営費用は民間移管と同じ扱いということであるということが理解できたと。それから、事業団としての事故や経営に関するリスク管理について、説明が欲しいというようなご意見もございました。

第3回目の民間移管審査委員会ですが、前回の意見にありましたリスク管理に関する管理体制ということで、事業団の組織体制、そういったものを説明させていただきました。各園がリスクを自律的に管理することを基本としまして、総括管理は事務局が一元的に行っているよと。経営については、理事会評議員会の役割を明確にして、適正な理事会及び評議員会の運営を行っていくと。定期的に園長会議を開催して、業務上の重要事項については、そちらで審議するというようなこと等を説明させていただいたところです。

これによりまして、おおむねご理解がいただけたということで、その後、審議に移ったというような形となっております。

審査の方法としましては、1回目の委員会において承認いただきました運営の方法ですとか、保育理念や保育水準など、保育環境等を総合的に判断するという事で、させていただいております。

審査の結果ですが、移管する法人の適格性については、牧之原市社会福祉事業団が妥当であるということで、全会一致でご承認をいただいているところです。

評価講評ということで、事業団への移管は、現在の保育内容を継続でき、保育環境の変化がないため運営法人の変更による子供たちへの影響がなく、社会福祉事業団に移管することが妥当であると考えられる。また、安全管理体制を維持しP D C Aサイクルやフィードバックを行う体制を維持していくということを求めていくというようなことで、意見をいただいております。

今後のスケジュールにつきましては、今回の答申を受けまして、市としてまちづくり本部会議において方針を決定してまいりたいと思っております。方針の決定後に関係議案、こちらは市立保育園の廃止条例になりますけれども、そちらの議案を提出していくというような形になるかと思っております。議案が可決された後に、法人との覚書の締結、それから社会福祉事業団による運営の開始というような形になっていくというふうに考えております。

最後に、令和5年度当初予算の際にいただきました附帯決議の対応状況について、併せて報告をさせていただければと思います。

一つ目として、榛原学園との協議を速やかに進めることとさせていただいておりますが、3月に行いました協議の際に、市と榛原学園の双方で合意した細江保育園の職員に対する牧之原市社会福祉事業団の雇用条件等の説明会を5月下旬に、法人理事長及び弁護士が同席する中、実施しております。

事業団からは、現在の職員について希望があれば事業団で雇用すること。それから、給与規程、それとか休暇、時間外手当などの待遇面の説明を行っております。職員からは、職場の異動に対する考え方、それから定年、退職金、有給休暇などについて質問があったところです。

現在は、細江保育園の職員に対する事業団へ移る意向確認について、市顧問弁護士と準備を行っているところとなっております。

前倒しの対応につきましては、今後の進捗に影響がありますので発言は控えさせていただきたいと考えております。

2の、保育園の施設運営が円滑に速やかに移行をできるよう、市として事前に準備を進めておくことについてになりますが、移行準備については、運営を引き継ぐ予定の牧之原市社会福祉事業団と情報共有し、細江保育園の職員への雇用条件の説明会においても協力して実施しているところです。細江保育園職員の事業団へ移る意向が確認できたら、具体的な雇用に関する調整を進めてまいりたいと考えております。

三つ目の細江保育園に通園する園児が安心して過ごすことができるよう、保護者等へ情報提供を適宜行い、安心安全な保育の提供に努めることをについてになりますが、保護者等への情報提供につきましては、不確定な情報等の提供は不安や不信を招くものと考えております。ある程度

の合意が得られた時点で、丁寧な説明を行ってまいりたいと考えております。

説明のほうは以上となります。よろしく申し上げます。

○議長（植田博巳君）

市長報告の説明が終わりました。お聞きしたいことがあったら、挙手でお願いいたします。

太田議員。

○12番（太田佳晴君）

先に、報告案件の中でいいですね。

ただいまの指定管理保育園民間移管の審査結果についてですけれども、いつまでということ、ここにも書いていないし、今の段階だと言えないということなんですけれども、既に今年度も半年がもう少しで過ぎます。そういった中で、我々は、この年度中に速やかに移行の確認をするということで、附帯決議を出したつもりです。議会のほうは。しかしながら、まだ実際には進んでいないというのが、具体的に現実だと思うんですけれども、そうこうしていれば来年度の予算編成の時期に、9月議会以降はかかってくると思うものですから、いつの段階で、行政のほうは今年度中に片がつくかどうかという判断をするのかという、その辺というのは、今お話はできますか。

○議長（植田博巳君）

杉本市長。

○市長（杉本基久雄君）

先ほども担当課長から説明させましたけれども、現在協議中ということで、詳細については、お控えさせていただきたいということですが、まずもってやらなくてはならないのは、確実なのは、令和6年度末をもって指定管理の委託契約が切れる。そのことを踏まえて、令和7年度からの運営について、そこはきちんと最低限やっておかなくてはならないということで、今そういった準備を説明のとおりさせていただいている。そういう中で、前倒しについても法人側と協議をしていくということでありまして。相手がありますので、いつまでということについては、控えさせていただきたいというふうに思います。

○議長（植田博巳君）

太田議員。

○12番（太田佳晴君）

恐らくこのままいけば、当初の予定、契約どおりの令和6年度末までということになると思うんですけれども、その段階に行けば、こちらの意向どおり進めることが速やかにできるのか、榛原学園が主張している、引き続き園の運営をといるのを、そちらにも分があるのか、その辺の判断というのはどうつくんですか。

○議長（植田博巳君）

杉本市長。

○市長（杉本基久雄君）

あくまでも現在の契約というのは、令和6年度末の契約であります。その契約の内容を1年前倒しできるということについては、いろいろな法的な問題がございますので控えさせていただきますが、令和7年度以降に関しては何ら契約を交わしているわけではございませんので、ここについては、いずれにしても同法人が、仮にですよ。やるようなことに主張されても、いずれにしても議会への議決が必要になってきます。公立保育園の廃止の条例、どここの法人に、民営化後の運営をとということも含めて、議会を開議することになるので、市といたしましては、令和7年度からの運営に関しては、市の社会福祉事業団が運営するという方針を立てて、審査委員会に上げた。それで今回答申をいただいたということですので、そこに関しては何ら現法人との間に縛りがあるものではないというふうに認識をしております。

○議長（植田博巳君）

太田議員。

○12番（太田佳晴君）

甘んじることなく、厳しい毅然とした姿勢で会議に臨んでもらいたいなど、それだけは思います。

それと一つ、ちょっと確認なんですけれども、民間移管審査委員の中で委員長を務めている方が牧之原保育園の園長さん。この方がどうこうじゃないのですけれども、こういった審査委員というのは、大体代表は行政側じゃないような気がするんですけれども、あえて今回こういう形を取った、その理由というのは。

○議長（植田博巳君）

子ども子育て課長。

○子ども子育て課長（前田明人君）

委員長の決定については、委員の互選という形になりますけれども、私どもも今回、外部の方等もお願いしたところでは、委員の中にはいらっしゃるのですけれども、地域の方とか、保護者の方とかというような方が、主な方になったりとかしてしまして、その中で、保育園に精通している方のほうがいだろうというような意見が出まして、今、坂部の保育園の園長をやっています、松下というようなことが声が上がりましたのでその方をお願いしたと、そのような形になっております。

○議長（植田博巳君）

太田議員。

○12番（太田佳晴君）

分かりました。いろいろな事情があるでしょうけれども、やはり精通しているとはいえ、あくまでも行政側の方なものですから、物を言うときに、なかなかやっぱり言えない部分は当然あると思うし、行政そのものですよね、代表が。だからその辺は少し考えながら、今後はいったほうがいいかなとそんな気がしましたものですから意見しました。

以上です。

○議長（植田博巳君）

この件については、附帯決議が出ていますので、慎重かつ積極的に取り組んで引き続きお願い
します。

ほかに。

木村議員。

○6番（木村正利君）

1点お伺いします。社会福祉事業団に当たりましては、令和4年6月27日に常務理事として前
田さんがなっているのですが、今回それまでは公立保育園の菅山、萩間、勝間田の感じでよかつ
たと思うのですが、審査する側と今回ちょっとナーバスの形になっているんですが、そこ
ら辺の経緯というのは、どういうふうな形で、榛葉さんからここが変わったという何かそこら辺
のご説明いただけけるとありがたいなど。

○議長（植田博巳君）

子ども子育て課長。

○子ども子育て課長（前田明人君）

社会福祉事業団は市が設置するという事で、理事長は市長が行うということで、決められて
おります。それから、市の関係者が多く理事に含まれているということで、保育園といいますか、
民間移管の主管課の課長が常務理事を行うというような形となっております。設立時についま
しては、まだ、民間移管推進室というものがあまして、そちらに今お話に出ました榛葉が室長
としておりまして、その者がやっていたと。それから、私が令和4年4月に子ども子育て課長に
なったわけなんですけれども、その際に組織改正で、民間移管審査室というものが令和3年度末
でなくなったというような形で、保育園等の担当課が子ども子育て課になったと。それで、理事
の変更等につきましては、理事会の議決が必要という形となったものですから、理事会の議決を
得た年度途中になりますけれども、そちらに榛葉のほうから私のほうに変更となったと、そのよ
うな形となっております。

○議長（植田博巳君）

木村議員。

○6番（木村正利君）

理解できました。ありがとうございます。

○議長（植田博巳君）

ほかにはよろしいですか。

太田議員。

○12番（太田佳晴君）

その他で何点か市長に確認したいと思います。

12日に文教厚生委員会協議会がございました。そのときに、あおぞら保育園の民間移管の関係
のご報告がありました。私は総務ですから、その場では意見できなかったんですけれども、改め

て追加の資料等もいただいて、その中で気がついたことがありましたものですから、ちょっと確認をお願いします。

この審査の中で副議長のほうからも指摘がございましたけれども、今後、運営していくに当たっては収支の改善に努めることということで指摘がございました。それで、追加で配布された委員7名の個別の評価を見てみますと、事業の実施状況による実績というものがございまして、その中では7人中、実に5人の委員が5点満点中の2点だったんです。このことは委員会的时候には委員の皆さんも確認はできなかつたし、その資料を後で確認して初めて確認できたわけですけども、7人中5人が2点というのは、やや問題あり、懸念材料ありということの評価なんです。それが7割強の委員が、そういう指摘をしているということは、私は子供を預かる、命を預かる経営者に、この議会として、榛原学園の問題があった以上、そう簡単にそうですかというわけにはいかないと思うんです。ですから、やや問題あり、懸念材料というのはどういうものなのか、それをどのように改善していくかということを、しっかり示してからでないと、議会として認めるということはどうかなと思いますけれども、この点についてはどうでしょうか。

○議長（植田博巳君）

子ども子育て課長。

○子ども子育て課長（前田明人君）

こちらの収支状況の懸念というものにつきましては、令和2年度、令和3年度におきまして収支がマイナスであったというような報告がありまして、そちらに関する評価というような形となっております。

今回、委員の中に収支状況を見ていただくということで、税理士の方も入っていただいているのですが、法人として全体で考えれば一羊会さんなんです、プラスということでありますので、法人として問題があるというレベルではないというような答えはもらっております。

そういった中で、あおぞら保育園としまして、特徴的な部分につきましては、人件費が90%ぐらいの割合となっているということです。通常7割から8割ぐらいの間というようなことで、かなり今、職員に対して手厚く処遇の対応をしているというようなことになっております。

法人にとっては当然苦しいという形にはなってしまうんですけども、そういった点、こちら現在相良地区なんですけれども、子供の減少が少し著しいものがありまして、保育園の利用者自体も減っているというところがありますけれども、今回の提案の中には、あおぞら保育園と同じく一羊会がやっています相良保育園、こちらのほうがあるんですけども、時期を見て統合等も考えていきたいというふうに考えているということで提案をいただいているところです。

そういった場合には、またさらなる効率化というものが図れるというふうに期待しておりますので、そういったところも鑑みて、この部分につきましてはやはり個別で評価しますので、2.2点というような形になってしまいましたけれども、全体としてはやっつけられるのではないかと、そのような判断をしたというような形となっております。

○議長（植田博巳君）

太田議員。

○12番（太田佳晴君）

そうすると、収支の改善に努めることという、あえて指摘したということの意味があまり感じられないんです。今の課長の説明だと。決して運営状況は悪くないと。それならなぜ、委員の皆さんが収支の改善に努めることというふうに指摘したのかが、ちょっと理解できなかったんですけれども。

○議長（植田博巳君）

子ども子育て課長。

○子ども子育て課長（前田明人君）

こちらの収支の改善につきましては、やはり本当に危ないというような意味での議論まではいっていませんでした。今言ったとおり、今後の見込みとかそういうのを見れば、やっていけるだろうというような判断もあったのですけれども、やはりマイナスがあるということ、それから2点という評価が出たということで、上げておかないといいますか、条件として入れておくべきだろうというような意見がありまして、あえて載せさせていただいたと、そのような形となっております。

○議長（植田博巳君）

太田議員。

○12番（太田佳晴君）

正直説得力が、今、課長の説明だと私は感じられないんですけれども、特にこれは榛原学園の問題になりますけれど、千奈ちゃんの事件からもう1年がたちます。その中で、連日お父さんがSNSでいろいろな意見を発信しています。その中でやはり、全国から支持の声というのは当然出ているし、その中で見てみると、行政の責任を問う、そんな声もあります。ですので、やはり別の園のことですけれども、ここはしっかりやっておかないと、載せておいたほうがいいだろうという、そういう安直なことではいけないと思うんです。決していい加減にやっているという指摘ではないんですけれども、議会にしっかり説明してもらうには、そこをもっと自信を持った確かな回答ができるように、私はお願いしたいなとそんなふうに感じましたので、お願いしたいと思います。

それと、ほかの件ですけれども、実は先月22日に全員協議会が開かれまして、その後、合同常任委員会が開かれました。福原危機管理監が6月30日をもって退職する旨の報告が、合同常任委員会の終了後に総務部長からございました。私は、なぜこのような大事なことを、市長から直接議会に、当日は全協もあったにもかかわらず報告しないのか、大いに疑問を感じまして、確認したところ、議長の確認は取ったということでしたので、その判断は判断で仕方ないかなと思ったんですけれども、なぜ、市長はこのことを市長直接、議会に当日全協の席で報告してくれなかったのか、まずそのことが1点。

それと、先ほど報告もありましたけれども、7月14日に相良と静波の海開きが開かれました。

そのときに主催者である活性化センターの理事長が副市長に代わられたということを初めて知りました。なぜこのことを議会に報告してくれなかったのか、その2点について、市長のほうから回答をお願いしたいと思います。

○議長（植田博巳君）

杉本市長。

○市長（杉本基久雄君）

先ほどの、あおぞらの件ですが、収支の改善というようなことを指摘したということでありますので、私としても、どのように同法人が収支の改善を図っていくのか、これについては、方針といたしますか、改善計画といたしますか、それを示させる必要があるだろうと思いますので、私のほうから担当課に指示をさせていただいて、その件については計画を出させたいと思っています。

ただ、一言言えるのは、一羊会に関しましては、今、担当から説明があったように、人件費率が90%、ちょっと人件費率が高過ぎると思います。ただ一方で、必要な残業であるとか、いろいろなことを、逆に言い換えますと、しっかり対応しているというふうに思いますし、それともう一つは、保育士の年齢構成が上がるとどうしても、高給といたしますかね、年齢の高い方にはそれなりの給与を出しますと人件費率が上がる。なので、逆にどんどん辞める環境をつくって、若い人たちをどんどん入れる環境を築いていくよりも、いわゆる保育の内容に関してはいいのではないかな。これはごめんなさい。推測ですが、そういったことも伺えるというようなことで感じますので、その辺も含めて、なぜ90%なのか、マイナスなのか、それから今後はどうするのかというのを含めて、きちんと説明できるようにさせたいというふうに思います。

それから、福原危機管理監であります、特別職ではないわけでありまして、職員でありますので、これまでも職員が途中退職するというようなことに関しては、個別の職員に関して議会の全協で市長が説明をしていない。ただ、今回は危機管理監というようなこともありますので、議長に担当部長のほうからお諮りをして、そういうような結果になったということですから、そこを尊重させていただいたということでもあります。

活性化センターの理事長に関しましては、6月上旬の理事会において決定したということでありますので、本来でしたら6月の全員協議会において報告すべきだったというふうに思っております。

以上です。

○議長（植田博巳君）

太田議員。

○12番（太田佳晴君）

福原危機管理監については、一職員だということなんですけれども、その後、新聞にも掲載がされました。牧之原市は、福原危機管理専門監が一身上の都合により30日付で退職すると、このような記事が載りました。自衛隊からということも含めて、だから、市長が今、普通の職員と同じように言われましたけれども、全く立場が違うと思うんです。何で私がこのことを指摘したか

といいますと、恐らく市長も記憶にあるかと思うんですけれども、市長が総務部長のとき、たしか初代の防災監ですか、こちらに招聘して赴任しました。そのとき私、最後まで反対したんです。牧之原市で自衛隊からの招聘するということ。その理由というのは、市長は承知していると思うんですけれども、私は少しその部分が、心配していた部分が出ているかなという気がしているんです。

ですから、今後の自衛隊からの招聘について、市長はどのように考えているか、そして議会としてどうだということも、しっかり指摘したりするのが我々の仕事だと思うんです。その場が提供されなかったことに、非常に疑問を感じています。ですから、そのように確認をしました。ですから、これについてはまた今後、議長もそういう場を持つのかどうかということは、ぜひ考えていただきたいと思います。

それと活性化センターの件ですけれども、理事長については、観光協会にいろいろな問題があり、我々議会としても、当時は附帯決議をつけながらも、牧之原市の観光行政をしっかりやるべきだということで、指摘をしてきました。そういったいろいろないきさつがあって活性化センターの立ち上げとなり、初代には当時の副市長が、ある意味で暫定的だと思うんです。暫定的で、急を要するし、軌道に乗せるということがあったと思うんですけれども、それから前理事長の元商工会の会長になりました。なぜそのときに副市長から商工会の会長になったか、民間になったか、それはどういう判断で牧之原市はそういう措置を取ったんですか。そのことを少し確認をお願いします。当時の確認です。

○議長（植田博巳君）

杉本市長。

○市長（杉本基久雄君）

初代の防災監の招聘に関しましては、私も当時総務部長でありましたので鮮明に記憶しています。これに関しては、当時、南駿河沖地震がございました。そのときに私は当時、秘書課長だったんですけれども、その被災の状況を見て、やはり自衛隊との連携は重要だなというふうに思いましたし、それからいろいろな情報、あるいは予測等についても、そういった専門の知識を持っている方というのは重要だなと思って、当時の西原市長に進言をして、要請してはどうかというようなことをお伝えしました。

そういう中で、条件をつけさせていただいたんですね。当時。県内出身の方で、一佐でということで、陸上自衛隊がいいというようなことで、静岡の地本に要請をさせていただきました。それから2年間待たせていただいたんですね。なかなか県内出身者でそういった方というのは厳しいよということをお伺いして、そういう中で初代の防災監が示されたんです。私も直接当時、総務部長という立場で、お会いさせてもらって、経歴や直接会った人柄でありますとか、この方は十分対応できるというふうに当時私は認識をさせていただいて、そして、最初であったものですから、議会のほうにも、いわゆる人件費の予算もあったので説明をさせてもらったのかなというふうに記憶してございます。

そういう中で、当時、同僚議員からもご質問があって、いわゆる天下りじゃないですよというような、上からのそういったことで使ってほしいみたいなのということではないですよという質問もあったかと思っています。

私とすると、そういうことではなくて、必要性をとということで先ほども説明させてもらった上で、今後ずっとそれでいくのかということに関して、できることならば、職員を自力で養成していく。そうした危機管理能力のある職員を養成していくことも必要である。ですから、そういった危機管理監の下で、職員を並行して養成していくことも考えますよという中で、5年経過していったわけです。

引き続いて養成もしていた中で、近藤さんが示され、近藤さんが帰って1年間でしたか、空白期間がございましたけれども、その間もできることならばということで養成をしておりましたけれどもなかなか、やはりその県内出身者ということにはまるといいますか、それから陸上自衛隊という一つの部門からというのは、非常に今は引く手あまたで人材がないというような状況の中で、航空自衛隊から2回続けて来ていただいたわけですが、そういった中で、現状の危機管理監、糸田危機管理監、それから森田危機管理課長、十分私はこれまでの8年間、9年間の中で育てていると思うんです。それなりに任せられるというふうに私は認識しております。

ということから、今回は福原氏は退職しましたけれども、あえて現在、自衛隊のほうには要請しておりませんが、今後も、今いる危機管理監、危機管理課長の中で、また職員を新たに養成していく必要はあろうかと思えます。状況に応じては、今後も先ほど言ったような県内出身者のいわゆる陸上自衛隊でというような経験をお持ちの方で、これはやっぱり人材に尽きると思うんです。ですのでそういった方がもしあるとするならばというようなことで、条件つきでは話をしたいと思っていますし、それから現状では、第2中隊の中隊長、連隊長ともホットラインができていますので、有事の際には、そういった意味で対応できるというふうに認識しておりますので、現状今すぐということは考えていないということでもあります。

それから、議会に対して、私のほうから自らというのは先ほど答弁させてもらったことでもあります。

それから、あと活性化センターの理事長に関しては、実は、前理事長から退任の申出があったのが1週間ほど前でした。ですので、これを次の方をとというのは、なかなかそこで民間から登用というのは、準備も必要ですので、なかなか大変だったんです。ですので私、当初、前横山副市長から前商工会長であった本杉さんというふうな、これは前副市長からの提言というか、ご意見もあって、本当にフリーの立場で動けるほうが十分いろいろなことが身動きしやすいだろう。それから、民間の発想で、そういったことを考えていただくほうがいろんなことが発想が出てくるのかなという思いもございましたので、その件に関してはそういった人材があったということで、それならば民間登用ということで、させていただいたわけです。

そういう中で、この2年間の中で、1か月ほど前までは継続してやらせていただくというようなお話をいただいていた。そういう中で、ご本人も相当迷われたと思うんですが、任期いわ

ゆる理事会の1週間ほど前になって私のところに、今回はやっぱり後期高齢者にもなったという中で、一線から退かしていただきたいという申出があったものですから、そういう中で不在というわけにいかないの、今回、副市長にもう一度お願いをさせていただきましたけれども、この件に関しましては、今後、副市長も様々な業務を抱えておりますので、なかなか、今までの本杉理事長のようにはいかないということは承知しておりますので、できるだけ早い段階で、そういった方が見つければ、ぜひそういった方をお願いをさせていただくということは考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（植田博巳君）

太田議員。

○12番（太田佳晴君）

危機管理監の問題は、市長自ら今発言されましたけれども、私が当時反対したのは、天下りとか、私はそんなことは一切言ってないと思ひます。市長がまさに言われた、何で職員を育てることをしないんだということだったんです。それが今、10年ほど経過して、市長が思うに至ったということは、その部分においては評価する必要あると思ひますけれども、今回の件も職員が負担になっているような気がしてならないんです。というのは、4月の人事で、一つの部に二人の部長がいるなんてことはあり得ないことなんですよ、正直。それをあえて牧之原市はそういう組織をつくったということから、その時点で、今回の6月30日の事態は想定していたとしか考えられないし、職員に負担のかからないようなことを首長のほうがしっかり考えていただきたいと、そういったことで発言をしました。

それで、今後の自衛隊については、またしっかり考えていただきたいと思ひます。

それと、活性化センターの理事長の問題ですけれども、これも副市長がどうこうということはないんです。それで、当時、何で前副市長からというのは、当然ですけれども、活性化センターは市から大きなお金が払われるんですよね、負担金。受け取る側の長である副市長である理事長が、牧之原市の幹部なんです。そういう組織の関係というのは、これはまずいよという、そういうことだったんですよね。そういうこともあって、民間でということなので、そこを踏まえて、早急にこれ何とかしていかないと、市の方針が変わったなら、それはそれでしっかり議事に報告してもらいたいと思ひます。

今初めて聞いて私も、そういうことか、それならということには理解できました。だから、私も一応、総務建設委員会の委員長をやらせてもらっていますけれども、そのくらいは言ってもらってもいいと思ひます。でないと、せっかく副市長をやっていたいただいても、なんだって、恐らく議員の皆さんも全く知らなかったと思ひます。だから、そういったことで、長くなって申し訳ないですけれども、議会への報告ということは、しっかりすべきことはしてもらって、これは外に出さないよということにはしっかり、市長に言ってもらえれば、当然議員も判断して、それはしっかりとどめると思ひますので、議会軽視という形で思われぬように、今後については、しっかり報告すべきはしてもらいたいと、そんなふうには思ひますので、よろしくお願ひします。

○議長（植田博巳君）

杉本市長。

○市長（杉本基久雄君）

ただいまご意見いただきましたので、今後につきましては十分その辺を配慮させていただきたいというふうに思います。

○議長（植田博巳君）

危機管理監の件につきましては、先ほど市長からお話あったとおり、通常の人事案件というところでございますけれども、やはり自衛隊から派遣された方ということで、会議の後に皆さんに報告をするという形でさせていただいたということでございます。

今後は、その辺の形は今話したとおりの形になっていくと思いますので、よろしくお願ひします。

あと、活性化センターの総会に私も出たんですけれども、その席で当時の本杉理事長がその時点でお辞めになるというような発言が最初だと思います。そこで初めて聞いて、我々は総会の挨拶で退座したものですから、その後、活性化センターの理事長が決定されたというふうには伺っていますけれども。

ほかには何かございますか。

中野議員。

○13番（中野康子君）

先に、市民の健康づくりの推進のために大塚製薬と包括連携協定を結んだようなことで、新聞に載っておりました。熱中症とかいろんな形で予防啓発とか情報提供などを行っていくということでもありますけれども、日本一女性に優しいまちの推進に向けて、更年期や月経前の症候群から産前産後など、女性特有の健康問題のサポートとかケアに力を入れるというような報道がございましたけれども、具体的には、製薬会社、それで大塚製薬というのは、薬品ばかりではなくて、食品もやっているんですよね。どういったケアを考えているのか、ちょっと詳しく教えていただきたいと思います。

というのは、産前産後の女性特有のというけれども、これはすごく大事で、どこの病院もすごく問題で抱えていることが多いんですよ。だからその辺を大塚製薬がどのような形でケアをするのか、その辺を教えていただきたいと思います。

○議長（植田博巳君）

部長。

○健康推進部長（河原崎貞行君）

お答えさせていただきますけれども、今日そういったご質問が出るということは少し考えていなかったものですから、資料を全く持っていないので、次回の文教厚生委員会のときに、大塚製薬とどういうふうな形で事業を進めていくかというのを報告させてもらうという形でさせていただきますと思います。

○議長（植田博巳君）

杉本市長。

○市長（杉本基久雄君）

私も詳細なところはあれなんですけれども、大塚製薬さんのほうからは、意見交換の中で出たのは、市の総合計画において、五つの重点プロジェクトの中に日本一女性に優しいまちづくり、ここを見て、我々が大塚製薬として持っているノウハウを使っていきたいということの思いで提言いただいたということですので、詳細については部長のほうから、今度の文教で説明ということですが、すごくいろいろな今サプリメントが出ているんですけど、大塚製薬さんのいろいろ話を聞きましたけれども、結構すごく高いですよ、サプリメント。大塚製薬さんの物を見ますと、これもそうだったんだ、これもそうだったんだと思うような商品が結構ございまして、これまでの実績も結構あるんです。そういった意味で、非常に有意義な協定が今回締結できたなと私自身思っていますので、またそういった部分の周知、具体的に何ができるか、これをしっかりさせたいと思います。

○議長（植田博巳君）

中野議員。

○13番（中野康子君）

大変大事なことで、大変ありがたいなと思いますけれども、サプリメントがたくさん種類がある中で、重複して逆に効果を、病気の増進なんかもお医者さんが盛んに最近言ってくれています。そういう部分も考えながら、しっかりとしたお話をさせていただいて、ぜひ報告をまたお願いしたいと思います。

○議長（植田博巳君）

市長報告とかの中での担当部署の方しか来ていないものですから。またこのような形あったら、またそういう形で報告させてもらうような形でお願いしたいと思います。

○13番（中野康子君）

今日はたまたま櫻井部長なんかもいらっしゃるので、多分その部分でかなと思ったものですから、失礼いたしました。すみません。

○議長（植田博巳君）

ほかには、ございませんか。

副議長。

○15番（村田博英君）

静波海岸の件ですけど、この前、開所式がありましたけれども、非常に暑い時期で続きますので、期待をしています。さっきの市長報告のとおりであります。花火大会をやったということで13日からですかね。みんな楽しみというか、知らない人もいたんですけど、問合せが来たりしているんですけど、30分ぐらいやるよということで、3日間ぐらいと答えたんですけど、あれどうだったんですかね。ほとんどやっていないのではないのといつて、ちゃんとやったのと

いう話があったり、いろいろなんですけど、さがらサンビーチはちゃんとやるんだけど、静波はやったのか、やらなかったのか。初日は音がしたんだよね。3日ぐらいを続けてやると言ったと思ったんだけど、どういうふうにやったのか。

○議長（植田博巳君）

CMの撮影のあれだと思うんですけども。

産業経済部長。

○産業経済部長（原口 亨君）

花火の関係ですけど、13日に静波で花火屋さんが試し打ちをしたいということで、そこで30分程度ということでお知らせをしたんですけど、その時間がちょうど飛行機が降りる時間と重なってしまって、上げられないという時間があったものですから、すごい短時間の間に上げてしまって、30分もかからずに上げてしまったという状況です。

その後の15日と16日に、相良のシーサイドパークでCMの撮影がありまして、その撮影用に花火を上げたという状況ですので、特に花火大会とかというふうに銘打って花火を上げたという状況ではなくて、最初は花火屋さんが試し打ちで花火を少し上げた。残りの2日間についてはCM撮影用に花火を打ち上げたというような状況です。

一応LINEでは皆さんに周知はさせていただきましたが、最初の1日目は短時間で終わってしまったので、苦情のLINEもいただいたりして、対応させていただきました。すみません。

○議長（植田博巳君）

副議長。

○15番（村田博英君）

多分、楽しみというか、相良ばかりというか、市長も静波の海水浴開きに言ったのよ。連日やりますとね。言ったから、やっぱりそれ、言葉というか、気をつけてね。LINE見ている人ばかりではないのでね。ちょっとそういうあれがあったので。

○議長（植田博巳君）

産業経済部長。

○産業経済部長（原口 亨君）

榛原地区の花火については、9月5日の日にWelcome花火ということで予定をしておりますので、そのときは事前の周知等はさせていただきたいと思います。

○議長（植田博巳君）

よろしいですか。

原口議員。

○10番（原口康之君）

1点だけお願いします。

学校再編についてですけども、今いろんな地域との意見交換等あると思うんですが、小中学校の跡地の問題で、当然、ほかの地域はいろいろ進んでいるとは思うんですけども、御前崎中

学校については学校組合の中のことであり、いろいろ進めにくい部分があると思うんですけどもその辺の市民への周知は、かなりよそに比べると遅れていると思いますので、その辺、進捗等を含めて地域のほうに少し報告を上げてもらえればと思いますが、どうでしょうか。

○議長（植田博巳君）

教育長。

○教育長（橋本 勝君）

学校再編に関する御前崎市教育委員会との話し合いは、定期的というか、継続して行っているんですが、跡地に関するところまでの話はまだ現在進んでおりません。こちらのほうの牧之原市の学校再編の進み具合を見ながら、御前崎と、今後また継続して協議をしていきたいと思っています。

○議長（植田博巳君）

原口議員。

○10番（原口康之君）

市民等からかなり関心も高く、問合せ等ありましたら、今検討中という話をすればよろしいですかね。

○議長（植田博巳君）

教育長。

○教育長（橋本勝君）

何ら決まっていなくて、これをどうするかという話が地元にもまたいろいろ間違った形にならざるを得ないものから、本当にまだ全く跡地をどうするかというところまで行っていない話ですので、特に学校組合ということもありまして、御前崎の教育委員会もありますので、この辺もちょっと慎重に協議中ということをお願いしたいと思います。

○議長（植田博巳君）

それでは、これで市長報告を終わります。

ここで10時20分まで休憩、暫時休憩とさせていただきます。お願いします。

[午前 10時08分 休憩]

[午前 10時16分 再開]

○議長（植田博巳君）

それでは、会議を再開いたします。

3 議長・関係議員・委員会報告 (1) 会議等の結果

○議長（植田博巳君）

次に、議長・関係議員・委員会報告を行います。会議等の結果の報告をお願いいたします。最初に、私のほうから報告させていただきます。

6月24日シルバー人材センターの定期総会がございました。シルバーさんでは、コロナで非常に苦しい運営を強いられていたということで、コロナが開けて好転してきましたということと、定年延長などで会員不足が今現在課題ということで、会長さんのほうから挨拶の中でお話がありました。

6月28日、浜岡原子力協議会理事会・総会がございました。私と副議長で出席してまいりました。議案は5件ありまして、5件と5年度の事業報告等が提案されて、全て可決されております。

6月28日静岡県の市町対抗駅伝委員会が行われまして、駅伝は12月2日、10時スタートということでございます。あと、小中学生の記録会を去年から実施しておりまして、今まで以上の成績を残したいという形で説明がありました。

7月3日、浜岡原子力発電所の視察ということで、廃炉措置の状況を視察させていただきました。皆さんお疲れさまでした。ありがとうございました。

7月6日、富士山静岡空港利用促進協議会がございました。これにつきましては、令和4年度の事業報告収支決算、それから令和5年度の事業計画と収支予算が提案されまして、全て可決しております。令和5年度の事業としまして、方向性として利用者数及び路線数の早期回復、コロナ禍前の水準への復活ということで報告がございました。

7月10日、大井川の清流を守る研究協議会総会が宮美殿で行われました。令和4年度の事業報告収支決算、そして令和5年度の収支予算が提案されて、全て承認されております。

7月11日、夏の交通安全県民運動出発式・巡回広報・一斉街頭広報がございました。皆様、ありがとうございました。

7月12日が、島田市、掛川市、菊川市、牧之原市の4市議会茶業振興情報交換会が行われました。正副議長、総務建設委員長、副委員長の出席でこの場所で実施いたしました。この交換会は、平成30年度に第1回目が行われまして、第3回の令和2年度まで実施されていましてけれども、コロナの状況の中で2か年中止となって、今年度第4回目ということで一巡する形となりました。

講演は、志太榛原農林事務所から「牧之原農業用水事業の歩み」「牧之原台地における茶業集積のための基盤整備～静波地区の事例～」についての講演がございました。県は茶園の基盤整備に力を入れているという状況でございます。

意見交換では、各市の取組状況を報告していただき、この会の持ち方として、情報交換にとどまらず、牧之原台地を一体とした市議会として、できる行動として県への要望活動をしていく方向となりまして、次回の事務局は島田市ということで調整しておりますので、ご承知おきください。

次に、7月13日、全国民間空港所在都市議会協議会第103回定期総会が、都市センターホテルで開かれました。民間空港所在都市は全部56都市ございまして、56都市が協議会の会員となっております。令和5年度の総会では、航空局のほうから状況説明がございました。その会場で、今度の副会長に牧之原市が選出されましたので、ここ1年はこの協議会の副会長という立場となりますので、よろしく申し上げます。

7月14日、さがらサンビーチと静波海水浴場の海開きがございました。皆さん、ありがとうございました。

私の報告は以上です。

○議長（植田博巳君）

副議長。

○15番（村田博英君）

6月24日、榛南青年会議所創立40周年記念式典がございまして、来賓として参加いたしました。40周年の歴代会頭が皆さん、38名ですか、出ておられまして、代表して富田氏から、市の行政のアドバイスをもらえるように、発展してまいりました。感無量ですというお話がございました。

それから、6月27日、榛原総合病院例月出納検査がございまして、午前9時から東館会議室にて行いました。5月31日現在の一般会計及び病院事業会計の現金出納の状況、それから各種帳票類、通帳、確認をいたしまして、問題はございませんでした。

それから7月4日、富士山静岡空港アクセス道路等建設促進期成同盟会総会がございまして、出席をいたしました。総会の議案は、来年度の事業議案とも可決されまして、会長は藤枝市の北村市長が再任をされました。

以上です。

○議長（植田博巳君）

原口議員。

○10番（原口康之君）

6月29日、例月出納検査が9時より行われました。代表監査委員とともに当局より水道会計、一般会計、特別会計、坂部財産区について説明を受け、帳簿どおり事業が執行されておりました。

同日午後、13時30分から財政援助団体、社会福祉協議会の監査を行いました。牧之原総合センターい〜らにて行いました。補助金の概要、事業内容についてと決算内容について説明を受けて、書類審査、質疑等を行い帳簿どおり正確に事業が行われていたことを確認しております。

以上です。

○議長（植田博巳君）

種茂議員。

○8番（種茂和男君）

6月23日に、御前崎市牧之原市学校組合の一般会計の例月出納検査がありました。検査対象としては、令和4年度、令和4年12月分から令和5年5月分の出納検査です。あともう一つは、令和5年度、令和5年4月分、5月分の歳入歳出の明細検査のほうをしました。特に私のほうとしては、現金の費用使用にはできるだけ学習環境の向上をとということでお伝えしてきました。

以上です。

○議長（植田博巳君）

ほかはよろしいですね。

〔「なし」と言う者あり〕

以上で、会議等の結果報告は終了いたします。

3 議長・関係議員・委員会報告 (2) 議会運営委員会

○議長（植田博巳君）

次に、議会運営委員会から報告をお願いいたします。

大石議員。

○14番（大石和央君）

議会運営委員会です。

7月5日ですけれども、まず、6月定例会の振り返りについてということで、総括質疑という定義について、議会の申し合わせ事項を見ますと、総括的な質疑というのは行政報告、施政方針及び議案に対する内容確認のみというふうになっているんですけれども、その辺りの徹底を今後していくということでの意見がありました。

そして、二つ目に、一般質問における冒頭の挨拶や答弁の最後のありがとうございますというのをやめるということで、これは以前から指摘されていることでもありますけれども、そうした意見と、それから反問権につきまして、今定例会で反問権が対応されましたけれども、基本、この反問権については、議会基本条例の中にうたわれていて、そしてさらに申し合わせ事項の中に、質問答弁、反問権、回答を含めて60分以内ということでもありますけれども、あまり反問権が使われますと、議員の質問権との兼ね合いで時間が制限されてしまうということもありまして、少し今後、他の議会の状況も踏まえまして議論していきたいというようなこととしました。

次に、イとしまして、令和5年度の議会報告会についてということでもありますけれども、まず、資料1-3を見ていただきたいと思います。

チラシをつくりましたけれども、後から少し意見がありましたらお願いしたいと思うんですけれども、これで見ればすぐ分かるんですけれども、まず10月6日がさざんか、10月13日に史料館ということで、夜7時から8時半までということでもあります。

それから内容としましては、議会報告という形で、令和4年度の決算審査報告と各常任委員会の活動報告、それから次に、議会改革特別委員会報告という形でテーマがありますので、その二つのテーマについて市民と意見交換をするというような内容になろうかというふうに思います。

それで、次にウェブ配信ですけれども、配信していこうということになりました。詳細は後になりますけれども。そして、アンケートも、これも実施するというので、前年度のものを参考にして、少し修正するというにしました。

それから、周知方法という形で書いてありますけれども、こんな形でやっていかなければならないので、いずれにしても、このチラシを完成させるということになろうかと思っておりますので、もう一度チラシのほうを見ていただきたいと思います。こんな形でよければ、そのままこれでいくということになりますけれども、もしご意見がありましたら、この場でお願いをしたいと思いま

す。修正をいたしますので。

○議長（植田博巳君）

ご意見はありますでしょうか。

〔「なし」と言う者あり〕

特にないということでもいいですか。

○14番（大石和央君）

まだ少し時間がありますので、こんな点、ちょっと変えたらということがありましたら、お願いいたします。

○議長（植田博巳君）

そういうことですので、またお願いします。

○14番（大石和央君）

次に、役割分担ということで、第一部関係ということで、決算報告、審査報告です。これは議会運営ということで、私と加藤議員と谷口議員という形になりまして、常任委員会の活動報告は、総務建設委員会のほうは太田委員長、名波副委員長、種茂議員ということになります。

それから文教厚生委員会のほうは、中野委員長と濱崎副委員長、それから石山議員ということとなります。

それで、あと議会改革特別委員会のほうは、村田委員長と私とで作成をしていくという、こんな役割分担となりまして、ウェブ配信につきましては名波議員とあと加藤議員と石山議員という形にしたいと思います。よろしいですね。

次に、その他としまして、静岡県後期高齢者医療広域連合議会議員選挙の結果についてということで、資料2でありますけれども、これについては後ほど、その他のところで報告をいたします。

それから、合わせまして、17回の東遠議員交流フォーラムの開催についてということについても、5番目のその他のところで報告をいたします。

以上、報告を終わります。

○議長（植田博巳君）

ありがとうございました。

太田議員。

○12番（太田佳晴君）

議会報告会の報告の中で、総務建設、私と文教の中野委員長ですけれども、この内容については、それぞれの委員会で独自で考えてやればいいんですか。ある程度統一感を持たせるという、そういう考えはないですか。

○議長（植田博巳君）

大石議員。

○14番（大石和央君）

特に議運の中では決めませんでしたけれども、それぞれのところで考えていただければと思います。提言書もありますので、それを中心になるかと思っておりますので、よろしく申し上げます。

○議長（植田博巳君）

私から、6月定例会の振り返りについて、議会運営委員長からお話ありましたけれども、やはり総括質疑の定義を、申し合わせ事項にしっかり書いてありますので、今回、窓口質問的なことが質問されたというような反省の意見も多々ありますので、ぜひその辺は留意して、今後は総括質問は全般的なことで、細かい質問はほかのときの質問にさせていただきたいというふうに思います。

それから、一般質問のときに冒頭の挨拶はしないということでありましたので、これもさらに徹底していただきたいと思います。最後のありがとうございましたとか、ありがとうございましたというのは、控えるというか、やめてくださいというご意見が、前にも言いましたけれども、さらに徹底していただきたいと思います。

以上です。

3 議長・関係議員・委員会報告 （3） 総務建設委員会

○議長（植田博巳君）

次に、総務建設委員会、申し上げます。

太田議員。

○12番（太田佳晴君）

総務建設委員会の委員会報告をいたします。

6月26日に、6月28日に予定しておりました市民会議、相良高校生との意見交換会について、最終的な打合せを行いました。意見交換の方法については、ワールドカフェと言われておりますテーブルごとでリラックスして意見を出し合う方法として、具体的には四つのテーブルをつくり、それぞれ委員二人ずつ担当を持ち、高校生との意見交換を行っていくようにしました。

そして今回は、9月に提言を予定しているテーマを主なものとして、四つのテーブルでは、1、沿岸部の活性化。2、空き店舗の活用と商店街の活性化について。3、有機農業の推進について。4、その他ということで設定をしまして、時間を区切り、高校生が四つのテーブル全てを回れるようにする方法でやるということで確認を取りました。

当日28日ですけれども、15時45分から17時30分まで、相良高校の1階の会議室で高校生19人が参加して、1テーブル4、5人ずつで行いました。

今回については、意見をまとめるのではなくて、自由な発想で高校生の多様な意見を聞くということでしたので、それぞれのテーブルで大変に盛り上がった意見交換がされました。

担任の先生からも、総評として、高校生が直接議員と対話する機会がない中で、貴重な体験ができよかったとの感想をいただいております。高校生からも、既に自分たちが取り組みたい具体的な提案をいただいておりますので、ぜひこれが実現できるように、9月提出予定の提言の中に

生かしていきたいと、そんなふうに考えております。

7月3日には、6月28日の相良高校生との意見交換会の振り返りと取りまとめを行いました。振り返りの意見としては、各委員とも初めての経験でしたが、今後の持続可能なまちづくりの取りまとめに向けて、高校生との有意義な時間を過ごしたとの感想を持ちました。

取りまとめにつきましては、意見交換会で行いました四つのテーマについて、担当の委員に分かれて行ってもらいました。

7月11日ですけれども、明日からになりますけれども、19日から21日までの委員会視察研修の最終確認を行いました。今月に入りまして、九州での大きな豪雨災害がありました。視察先であります鳥取、島根県方面でも、ある程度の被害が予想されておりましたので、事務局に現地の視察先の状況を確認してもらったところ、やはり少なからずの被害はあるようでしたけれども、視察のほうは受け入れていただけるということでしたので、予定どおり行うことといたしました。

また、9月本会議終了後に予定しております提言書の提出に向けて、相良高校生との意見交換会のまとめからの具体的な提言案、そして明日からの視察研修を踏まえ、そして今までの調査研究を通して考えた各委員の提言の具体的な案を、それぞれ取りまとめてもらうように指示をいたしました。

今後につきましては、視察研修終了後に、提言書の取りまとめに入っていきたいとそんな風に考えております。

以上です。

3 議長・関係議員・委員会報告 (4) 文教厚生委員会

○議長（植田博巳君）

次に、文教厚生委員会をお願いします。

中野議員。

○13番（中野康子君）

6月21日に市民会議を行いました。これは前回の全員協議会のほうで説明をさせていただきましたけれども、相良高校のサーフィン部の生徒さんと意見交換を行いました。内容につきましては、前回の全員協議会で報告してありますので、省かせていただきます。

7月12日に市民会議の振り返りを行いまして、提言書にまとめる事項を確認いたしました。それから、県内と県外の視察先の確認を行いました。

7月21日、県内視察を予定しております。島田市と焼津市のほうへ伺う予定であります。

以上です。

3 議長・関係議員・委員会報告 (5) 議会広報特別委員会

○議長（植田博巳君）

次に、議会広報特別委員会をお願いします。

原口議員。

○10番（原口康之君）

議会広報特別委員会です。

6月26日、7月7日と、議会だより第71号の発行に向けての確認並びに編集作業を行いました。原稿提出に協力をいただいた全ての議員の方にお礼を申し上げます。ありがとうございました。以上です。

3 議長・関係議員・委員会報告 （6） 議会改革特別委員会

○議長（植田博巳君）

次に、議会改革特別委員会をお願いします。

副議長。

○15番（村田博英君）

議会改革特別委員会ですが、Aチームは、議会報告会の改善改革ということで、前回までに、議会報告会における市民との意見交換の在り方、議会報告会の開催スケジュールの見える化、三つ目として高校生を対象とする議会報告会の開催を決めております。

Bグループにつきましては、市民への開かれた議会改革ということで、この後行うようですが、8月の全体会議に向け、9月には議長への報告としたいと思っております。

以上です。

○議長（植田博巳君）

ありがとうございます。

以上で、委員会報告を終了いたします。

4 協議事項

○議長（植田博巳君）

次に、協議事項ですけれども、今回はございませんので、5のその他に移ります。

5 その他 （1） 第17回東遠議員交流フォーラムの開催について

○議長（植田博巳君）

（1）第17回東遠議員交流フォーラムの開催についてということで、事務局のほうから。

次長、お願いします。

○事務局次長（本杉裕之君）

すみません。その前に、先ほどの議運の中で資料2の後期高齢者医療連合会の議員選挙の当選についてという、その件を説明させていただきます。資料2をお開きください。

こちらですけれども、6月の最終日に、皆さんに投票していただきました結果となります。当選者が、下田市の中村さん、浜松市の戸田さん、磐田市の鈴木さんということで、3名の方が当

選されております。右側の表が得票集計表となりますので、内訳はこのようになっております。

以上です。

続きまして、第17回東遠議員交流フォーラムの開催についてということで、説明させていただきます。

まず開催日ですけれども、8月4日の金曜日。場所がつま恋リゾート彩の郷。対象者は全議員になります。掛川市、菊川市、御前崎市、牧之原市の全議員となります。

こちらの移動ですけれども、市の中型バスにて榛原庁舎を12時半出発、相良庁舎を12時50分出発ということで、本日、議会事務局の局内に、表のほうを用意してありますので、またお帰りの際に、どちらから乗られるかを丸を入れていただきたいと思います。

この当日ですけれども、研修会と情報交換会ということで、2部にわたって行われます。まず研修会のほうが14時から16時50分ということで、コンベンションホールのLという部屋で講演があります。こちらにつきまして、演題が仮ですけれども、「リニア中央新幹線建設の環境影響に係る県とJR東海の対話の状況」ということで、講師としまして、静岡県くらし・環境部理事の織部様をお呼びして講演をいただくこととなっております。

ただ、こちらですけれども、議員の皆さんが現状のリニアの関係を確認するというので、その程度の内容にさせてもらうということで、特にその場での質疑応答とかの時間は設けず、ある場合は各事務局へ提出いただいて、開催市の掛川市のほうで取りまとめてまたご回答すると、そういう形になります。

講演の後に意見交換ということで、情報交換をするわけですけれども、こちらが、7人から8人くらいを1グループとしました9テーブルを用意されまして、委員会ごとにテーブル分けされます。その中で皆さんがふだんやっております所管の委員会に関する分野での話題を提供し合うと。市の課題であるとか、聞きたいことであるとか、取組事例とか、そういった話をざっくばらんに話をしていただいて、最終的に簡単な発表をすると、そういった形を考えているようです。

次に、情報交換会ですけれども、懇親会ですけれども、こちらが17時から18時半ということで、コンベンションホールMの部屋へ移りまして懇親会が行われます。会費のほうが一人税込で8,000円。こちらは当日集金させていただきます。ですので、お金のほうはお持ちいただいて、当日私が集金しますので、よろしくお願ひしたいと思います。

議長、続けていいですか。

5 その他 (2) 令和5年度 静岡県市町議会議員研修会の開催について

○議長（植田博巳君）

(2) をお願ひします。

○事務局次長（本杉裕之君）

それでは、(2) で令和5年度静岡県市町議会議員研修会の開催についてということで、こちらは先月の全協でもお知らせしましたが、8月17日の木曜日、13時半から15時15分で、静岡県コ

ンベンションアーツセンター「グランシップ」、こちらの中ホール大地という会場で行われます。こちらも議員さん全員参加という形になります。

当日、この日は9時から議員全員協議会が開催されていますので、議員全員協議会終了後、第1、第2会議室で昼食を取っていただいて、12時にこちらの相良庁舎を出発したいというように思います。

こちらは、全協の流れから帰りも5時前には帰ってこられるということで、皆さんこちらで全員出発という形にさせていただいております。つま恋へ行きます東遠のときは、榛原、相良、それぞれで出発しますが、8月17日の研修会については、全員こちらから出発してこちらに戻ってくると、その辺をよろしくお願ひしたいと思います。

以上です。

○議長（植田博巳君）

ありがとうございます。

フォーラムにつきましては、演題がこういう演題で決まってきたということですから、10市町の共同歩調を取るというような話の中で、掛川市の議長のほうから島田市の議長のほうへ一報は入れさせていただいております。

以上です。

よろしいでしょうか。

〔「なし」と言う者あり〕

それでは、これで全員協議会を閉じさせていただきます。お疲れさまでした。ありがとうございます。

〔午前 10時46分 閉会〕